

# 全拠点で太陽光発電

## 富士スバル 店舗照明に活用

### 環境保全への意識示す

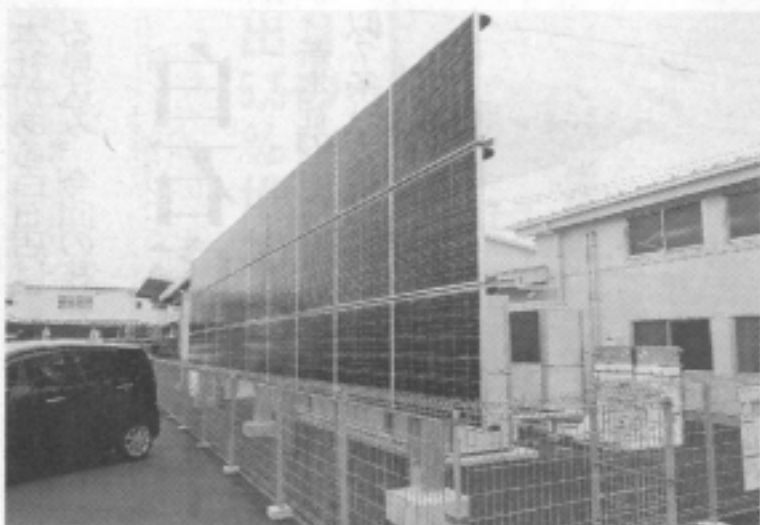
【前橋】富士スバル(斎藤親社長)はこのほど、新車販売拠点のすべてに太陽光発電システムを設置することを決めた。環境保全に対する企業姿勢を示し、スバルブランドの価値向上に貢献することが目的。2014年度は11店舗への設置を計画し、店舗によって売電または店舗の照明などの電力源として活用する。すでに同社は13年10月にリニューアルした太田店(群馬県太田市)の新車棟に同システムを導入し、ショールーム内照明の電力を賄っている。

同社は販売車種が登録車中一争力を増すために富士重工工業心となる中で、販売車種の競争が推し進めるスバルブランド

の強化に呼応した様々な取り組みを進めている。その一環として老朽化した店舗を最新鋭の設備・機器を備えた21世紀型店舗につくり替え、CSやユーザーからの信頼を高める工夫を行っている。太陽光発電システムは、その信頼性向上

に役立つ設備の一つとして位置づけた。今回決定した同システムの設置計画は、設置済みの太田

店を除く新車販売拠点16店舗のすべてが対象。14年度は11拠点に設置し、残る拠点も早期に設置を完了させる。太陽光パネルは店舗建物の屋根の上や壁面などを活用して設置し、ショールーム内に発電状況を表示するモニターを取り付ける。全拠点への設置により店舗の先進性や環境に優しいディーラーであることを訴求し、スバルブランドのイメージアップに貢献する狙いだ。



太田店は太陽光パネルで店舗の先進性をアピール